

アブラナ科露地野菜から始める花成自在制御法の開発

本提案では、植物の花が咲く時にはたらく遺伝子経路を操作可能なバイオスティミュラント*を同定することにより、気候変動下における食料の安定供給をめざします。

* 植物の本来の力を活用することで、良い生理状態をもたらす物質の総称

奈良先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科 バイオサイエンス領域

花発生分子遺伝学研究室
教授 伊藤 寿朗

農家は野菜の花を咲かせないためにビニールを多用する

背景

トンネル栽培：冬場に日中の生育温度を上げ、花のために栄養価が下がるのを防ぐ



https://shop.takii.co.jp/shop/selection/daikon1403_02.html

トンネル栽培のデメリット:

- 1) コストがかかる
- 2) 手間がかかる
- 3) 温度管理が面倒
- 4) 追肥がやりにくい



(ビニール資材14億円、
労働力4億円/年間)



プラスチックゴミ
による海洋汚染

「花咲かせない爺の灰があれば、これらのデメリットがすべて解決する！」

自己紹介

穀物類や果物など、
我々の食べ物のほと
んどは花の産物です。
私達は花の形作りの
研究から、社会貢献
をめざします。



Mail: itot@bs.naist.jp
Web: <http://bsw3.naist.jp/ito/>

名前, 役職 伊藤 寿郎, 教授 博士(理学) / Toshio ITO, Ph.D.

略歴

1997年 京都大学大学院 理学研究科 博士課程修了
1997年 カルフォルニア工科大 ポスドク(Caltech) JSPS 海外特別研究員
2003年 同大 シニア リサーチ ファカルティー ポスドク研究員
2005年 シンガポール国立大 (NUS) テマセックライフサイエンス研究所
(TLL) 主任研究員 (Principal Investigator)
2011年 同大 シニア主任研究員 (Senior Principal Investigator)
2015年 奈良先端大 バイオサイエンス領域 教授
花発生分子遺伝学研究室の開始、現在に至る

抱負

“Things do always work out.”

